

# 山形県地域密着型サービス外部評価結果報告書

## 評価結果報告書

### 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

※自己評価項目番号26 馴染みながらのサービス利用  
自己評価項目番号39 事業所の多機能性を活かした支援  
については、小規模多機能型居宅介護事業所についてのみ記入

事業所番号	673200341
法人名	有限会社 カワムラ
事業所名	グループホーム 燦燦
訪問調査日	平成 20 年 3 月 21 日
評価確定日	平成 20 年 5 月 1 日
評価機関名	山形県国民健康保険団体連合会

#### ○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

#### ○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

#### ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年4月23日

## 【評価実施概要】

事業所番号	673200341		
法人名	有限会社 カワムラ		
事業所名	グループホーム 燦燦		
所在地 (電話番号)	山形県飽海郡遊佐町遊佐字南大坪12番地の1 (電 話) 0234-72-5900		
評価機関名	山形県国民健康保険団体連合会		
所在地	山形県山形市松波四丁目1番15号		
訪問調査日	平成20年3月21日	評価確定日	平成20年5月1日

## 【情報提供票より】(平成20年2月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 1 月 9 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	13 人	常勤 10 人, 非常勤 3 人, 常勤換算	12.4 人

### (2) 建物概要

建物形態	併設/○単独	新築/改築
建物構造	鉄骨造カラー銅板葺 造り	
	2 階建ての	1 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	29,520 円	その他の経費(月額)	光熱水費8,010円(月額)他
敷 金	有( 円) ○無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円) ○無	有りの場合 償却の有無	有/○無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000 円		

### (4) 利用者の概要(2月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護1	4 名	要介護2	3 名		
要介護3	8 名	要介護4	2 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 A81.9歳 B84.4歳	最低	72 歳	最高	93 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	影沢内科医院 順仁堂遊佐病院 大滝歯科医院
---------	-----------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

開設から5年目を迎えるホームは自然に恵まれた環境の中にあり、地域の方との交流をより進めるために「ホーム開放」を試みるなど、地域の理解と協力に支えられた、地域に根ざすホームづくりを目指しています。また、利用者の「娘」であり、「嫁」でありたいとも職員は考えており、「マーガレット」と「すみれ」というユニット名は、利用者との語らいの中から生まれた笑顔と会話が絶えないホームです。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での改善課題はありません。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者は自己評価する意義を職員に説明しており、今回は管理者が記入したものを職員に見てもらい、職員から意見を出してもらうようにした。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議を2ヶ月~3ヶ月ごとに開催し、利用者の状況、ホームの説明、行事の予定の連絡が報告されている。また、参加メンバーからは、地域青年会や子ども会にも声かけし、ホーム開放につなげるという提案が出されている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	面会時にはお茶を出し、話しやすい雰囲気作りに努めている。また、苦情が寄せられたことはないが、家族から出された「散歩」についての要望などにも応えるようにしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	近くの保育園の運動会や交流会への参加、グループホームでの交流会の広報をしている。また、民生委員や婦人会役員の協力を得ながら、公民館の文化祭への参加、獅子舞のホームへの巡回など、地元の人との交流が図れるように取り組んでいる。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念はわかりやすく具体的に作り上げており、地域密着型サービスの内容を取り入れホーム独自の理念をつくりあげている。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日のミーティングの時間を利用し、1日の支援内容や理念を踏まえ、職員で確認しながら実践に向け日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近くの保育園の運動会や交流会への参加、グループホームでの交流会の広報をしている。また、民生委員や婦人会役員の協力を得ながら、公民館の文化祭への参加、獅子舞のホームへの巡回など、地元の人との交流が図れるように取り組んでいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は自己評価する意義を職員に説明しており、今回は管理者が記入したものを職員に見てもらい、職員から意見を出してもらうようにした。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2ヶ月～3ヶ月ごとに開催し、利用者の状況、ホームの説明、行事の予定の連絡が報告されている。また、参加メンバーからは、地域青年会や子ども会にも声かけし、ホーム開放につなげるという提案が出されている。		

山形県 グループホーム燦燦

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	役場職員と利用者の変化や状況について報告したり、家族との連絡方法について相談している。また、役場の保健師には病気に関することを聞くこともある。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	暮らしぶり、健康状態、金銭出納状況は報告されているが、職員異動は口頭のみでの報告となっている。	○	現在までの口頭による職員異動の報告に加え、家族に向けた通信文の中でも職員異動の報告を行ってみることも期待される。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時にはお茶を出し、話しやすい雰囲気作りに努めている。また、苦情が寄せられたことはないが、家族から出された「散歩」についての要望などにも応えるようにしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの職員による支援が受けられるように配置異動を行い、職員が交代する場合でも、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動や退職の場合は職員自身が利用者に直接話するようにして、利用者へのダメージを防ぐようにしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ノロウイルス研修、事例研究、リスク管理研修などに参加した内容を職員会議で報告して情報を共有している。また、職員自身からも食事介助やレクリエーションについての研修希望が出されており、研修を受けられる機会を設ける予定である。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他グループホームとの交換研修を行い、利用者との関わり方を学んだり、支援の中に筋力低下防止のメニューを取り入れたりしてサービスの向上につなげている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<b>【小規模多機能型居宅介護のみ】</b> ○馴染みながらのサービス 利用本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(小規模多機能型居宅介護のみの調査項目)		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	旬の食材の使い方を教えてもらったり、また、日ごろの生活の中で昔の話を聞いたりしながら、喜怒哀楽を共にする関係を築いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	表情や言葉、生活歴を考慮しながら利用者の意向の把握に努めており、家庭訪問や墓参りに行った例もある。また、自ら意向を表わすことが困難な利用者については、しぐさや表情で把握するよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族や本人の要望を取り入れるようにしているが、職員や必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画になっていない。	○	介護計画の作成過程に職員や必要な関係者がより関わることで、各々が持っている情報やアイデアを介護計画書の中に更に反映させていく取り組みも期待される。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月ごとに介護計画書の見直しを行うようにしているが、見直しに関する記録等の整備がなされていない。また、心身の状態変化や要介護度に変化がある場合に、職員や必要な関係者との話し合いによる現状に合わせた介護計画書の作成が行われていない。	○	介護計画の期間に応じた見直しに関する記録等の整備、また、現状に即した新たな計画作成の際の職員や必要な関係者との話し合いが期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	<b>【小規模多機能型居宅介護のみ】</b> ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、 事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をして いる	(小規模多機能型居宅介護のみの調査項目)		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医 と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受け られるように支援している	利用者一人ひとり、かかりつけ医に定期的に受診して おり、口頭や文章でのやり取りを通して、適切な医療が 受けられるようにしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、でき るだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかり つけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有 している	利用者が重度化した場合や入院した際には、医師や 家族とも話し合いを行い、方針を決めている。また、状 態変化時はその都度話し合い、連絡ノートを活用して 職員間の方針共有を図っている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言 葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをし ていない	利用者の生活歴や性格を考えながら、プライバシーに 配慮した排泄誘導や入浴支援を行うようにしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切に、その日をどのように 過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースを大切にしており、散歩の 希望があれば付き添いながら出かけるようにしている。 また、食事の支度も無理強いせずに、本人の希望を尊 重するようにしている。		

山形県 グループホーム燦燦

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は利用者の好きなものを聞きながら1週間ごと立てており、既製品を使わず、利用者も食事づくりに参加でき、食事が楽しみになるよう支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日を忘れてしまい入浴しない方もいるため、月、水、金と火、木、土に入浴する方と分けて、入浴するための意識付けをしている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事支度、洗濯物たたみ、歌、塗り絵、輪投げ、体操などの楽しみや気晴らしの支援を行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホーム周辺や近隣の施設まで散歩に出かけたり、近くのスーパーまで買い物に出かけたりしている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら鍵をかけないで安全に過ごせるような工夫に取り組んでいる。	玄関にはセンサーチャイムが設置され、職員の見配り、気配りにより、玄関には鍵をかけないようにしている。また、時間があるときは利用者と一緒に外に出てみる取り組みもなされている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得ながら職員が参加する訓練は行われているが、利用者も参加した訓練、地域の方の協力を得られる働きかけについては、まだ行われていない。	○	火災や地震、水害等の災害時に、昼・夜を問わず利用者が安全に避難できるための訓練、また、日ごろより地域の人々の協力が得られる働きかけも行っていくことが期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の状態に応じてミキサー食や食材を食べやすく切ったりする工夫をしている。水分量はあらかじめ使っている容器の水分量を測って飲んだ量を記入して把握に努めており、食事摂取状況は利用者一人ひとり記録されている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が集まる食堂兼居間には季節の花や装飾、ソファや休めるための台座があり、全体的に明るく居心地良く過ごせる空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた小物や衣装ケースなど持ち込まれ、家族の写真等も飾られている。待ちこまれているものが少ないことは職員も感じており、今後、家族の理解と協力を得るための工夫を検討予定である。		